

国鉄労働者の意地にかけても許すな！

全国の職場に吹き荒れる攻撃の実態

いま全国の職場で、すさまじい攻撃が吹き荒れている。こうした事態は、労働組合が原則をまげず闘い続けることの重要性を教えている。「60・3」に唯一、実力決起し「3・24三里塚」への5割動員実現にむけた労働千葉の闘いこそ、当局の攻撃をうち破る道である。われわれは、「三里塚・国鉄を基軸に反動中曾根と対決する労働運動」路線を堅持し、トコトン闘い続ける。本号では、全国の国鉄職場で一月以降発生した当局の弾圧の実態例を紹介するが、これは永山の一角である。

当局の狙いは労働組合の破壊だ

● 甲府駅の組合員50名に強制配転

— 甲府駅・「国労闘争情報」より —
「59・2」合理化で69名の「過員」を強行した甲府駅は、一年間仕事を与えないばかりか、一月以降、50名に対し、東京地区への指名配転（単身赴任、家庭破壊にもつながる）を強制している。

● ニュースを配って処分、書いて処分

— 米子・浜田保線区「国労闘争情報」より —
機関紙を詰所で組合員に配布したら停職一カ月、書いた役員が戒告処分、さらに作業を手伝った組合員に厳重注意。

● 休憩時間中の外出禁止を通告

— 熊本電力区「国労闘争情報」より —
「緊急時にいつでも労働できる状態でなければならぬ」として、三交代2形の勤務者8名に対し、休憩時間中の電力指令室からの外出を一切禁止するとの通告を行った。

● 点呼で「ワッペンをはずせ」

— 仙台・会津若松車掌区「国鉄新聞」より —
ワッペンへの介入が強化され、今まで注意だったのが、今は点呼で「はずせ」といつてきている。

● プライバシーにまで介入

— 東京・小田原駅「国鉄新聞」より —
個人の電話までどこにかけたかと介入。当局の言動をテープにとつたらロッカーまで探しまわった。

● ワッペンを着けて「3・8適用」

— 札幌・苫小牧保線区「国鉄新聞」より —
学園でワッペンを着けていたとの理由で「3・8」が適用された。

「定員法」を教訓化し、
一人の首切りも許すな

● 風邪でも、はってでも乗務しろ

— 名寄保線区「国労闘争情報」より —
風邪であろうと他に乗る者がいない時ははってでも乗務してもらおう、と業務命令。非休、公休で本人が不在であるにもかかわらず、当局が勝手に自宅に張り紙をして、それで「勤務確定だ」といい、勤務できなかった時は「処分だ」との攻撃。

● ワッペン着用を理由に勤務を外す

— 小牛田駅「国労闘争情報」より —
ワッペン着用を理由に、運転主任2人を勤務から外した。

● 退職を強要

— S電車区・国労新橋支部青年部「奔流」より —
区長以下415人で一人を取り囲み退職を強要し、抗議に対して「上からの命令に従うだけだ。局に意見などしたらオレ達の首が危ない」と発言。

● ワッペンをむしりとり

— I駅分会・国労新橋支部青年部「奔流」より —
改札助役が来て「これはまずいんだよ」と、両手で強制的にワッペンをむしりとり、他の仲間にも「自宅に帰れ」とおどした。

● 学園を休んで退学

— 国労岡山施設分会 機関紙より —
学園に2日間の年休申請をして休んだところ退学処分

● 職場抵抗闘争で懲戒免職

— 岡山施設分会 機関紙より —
一月三十一日、国鉄当局は「再三にわたり職員として著しく不都合な行為があった」なる理由をもって、岡山保線区瀬戸支区の分会役員四名に、

（裏面へつづく）

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！

3・24の戦いで国鉄労働運動の破壊を解体攻撃を

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

3・24 3たびの五割動員実現で国鉄労働者の底力見せつけよう

懲戒免職、停職六カ月／四カ月の不当処分を発令した。

☉ “トイレは5分以内・・・”
勝手に個人ロッカーをあけ、私物を壊す管理者・・・など、

二月十三日／十五日に開催された国労の活動家
全国交流集会では職場の活動家から、次のような
弾圧の実態が報告された。(国労情報より)

○ “トイレも5分以内でやれ”との攻撃をかける管理者。
○ “持場を10分離れたら不参扱いにする”管理者。
○ 当局が勝手にロッカーをあけて湯のみ茶碗をわった。「元にして返せ」と追及したら、セロテープで貼って返した。
○ 年配者に対して当局はやめることを強要し、それを拒否したら「やめたくない理由を書け」。

しかし、生活が苦しいからではだめだ」と脅かしてきた。
○ 親の命日の休暇申請をしたら、3日前に拒否された。
○ 昇給試験でワッペンを着けてない組合員だけが通った。
○ ワッペンをとらなければ転勤させないといってきた。

「三里塚を闘う力」が、この攻撃を粉碎する

動労革マルの裏切り・民同幹部の闘争放棄を許さず、
不屈・非妥協・実力で闘いぬこう！

当局の国鉄労働運動解体攻撃の激化の中で、われわれの選択する道は、闘うか、屈服するか、の二者択一しかない。つまり、動労千葉のように、たとえ血を流しても、それが必要なことならば組合員に対して「職場からの実力決起で『過員』攻撃をうち破ろう！ 3・24三里塚へ結集しよう」と提起し闘いとるのか、それとも、動労「本部」革マルのように、「天気が悪いから闘うな。闘おうという奴は組織破壊分子だ！ 当局と手を組んで、出向・休職・退職に骨身を削ろう！」と組合員をオルグしてまわるのか、——このどちらかだ。

われわれは迷うことなく前者の道をとる。
労働者の最先頭で、3・24に総決起する。全国の仲間の皆さん、共に闘おう！

二期工事実力阻止—東峰十字路裁判闘争勝利、不法収用法弾劾、脱落派粉碎・一掃 3・24 全国総決起集会
3月24日(日) 正午
三里塚第一公園
集合 成田運転区 10時
各支部最大限・作業衣(上・下)



「60・3」粉碎 2月21日実力決起の職場より (1985・2・21 幕張駅区)